

空中撮影データによる地上任意視点の実時間3次元動画生成システムの研究開発（株式会社ハイコム）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
14 - 06	B	<p>中間目標として提示されていた個々の要素技術の達成度は概ね良好であると考えられる。今後の研究計画としては、研究期間内での実用化が容易ではない目標が幾つか提示されており、プロジェクト全体の達成状況に応じてこれらの目標の再検討が必要になる場合も考えられる。さらに、競合技術との関係を考慮した上で、本プロジェクトで行われている要素技術のシステム化・実用化への開発体制の整備が望まれる。</p> <p>事業化関係については、県レベルの自治体を巻き込んだ具体的実験を行う予定としており、非常に現実的な取組を行っていることが評価できる。商品は、パッケージ製品とシステム・サービス製品の販売を想定しており、それらの開発に2年程度かかるが、マーケティングについては研究開発終了後速やかに取りかかることとしている。収益については、多くをパッケージ製品の販売に依存する計画であるが、対象となるGIS市場は大きな市場ではあるものの競争も激しいのでパッケージ製品を長期的に販売することは容易でないと考えられる。よって、優位性のアピールやユーザーを取り組む方法等により、早期にシステム製品販売に注力することが望まれる。GIS市場は今後も発展が期待できる領域であり、研究開発成果による基本的な事業化計画とその取り組みはそれなりに評価できる。しかし、事業化に当たっての知的財産の取得についてのより積極的な活動や、受託企業自身における営業体制のより一層の充実が必要である。</p> <p>「改善指摘事項」の対処により再評価することとなるので、当該改善指摘事項の対処が速やかに対応可能かどうかには注意すること。</p>	A	<p>今後の研究計画については、既存技術に対する提案手法の差別化を計り、より一層提案手法の優位性を明らかにするような方向で目標の再検討が行われたと判断される。特に、動物体の実時間追跡という目標を当該プロジェクト後の次の開発目標とし、無人ヘリによる静的対象物体の3次元計測という実証実験を今後の優先的な目標として設定したことで、既存技術との具体的な比較検討が可能になる。従って、今後の目標設定として十分に評価できる。</p> <p>また、事業化に向けてシステム開発部の設置とその組織目標が明確にされた。</p> <p>顧客を具体的に見て営業努力ができるシステム販売に注力する計画に見直した。また、テストパイロット等を通じた営業手法の活用や複数の自治体獲得を視野に入れた営業体制の整備を図るとしている。このような営業方法や営業体制は、ユーザーを取り込むという点でシステム販売に適した手法であり、体制である。このことにより、システム販売の強化に結びつくものと考えている。また、特許取得計画の明確化により、特許取得についての積極性が確認できたとともに、製品の技術的差別化を明確にする意味で数多くの特許武装が可能である技術的魅力が確認できた点も評価できる。</p> <p>「改善指摘事項」の対処の内容は、いずれも速やかに対応できることが確認できた。</p>